



## 準スタッフ派遣を再開します

代表理事 永岡 宏昌

当会は、1998年にケニアで活動を開始し、20年間の活動を経て、2018年から活動地をマラウイに移行しました。

ケニアの活動では、「ケニア人専門家+ケニア人スタッフ+日本人」のグループで、地域や学校のさまざまな関係者と話し合い、研修や実践活動などに取り組んできました。この現場に入る「日本人」として、スタッフとともに多くのインターンが参加しました。インターンは、将来アフリカの社会開発に貢献する意欲があり、ケニアで当会活動に6か月間専従することを条件として、大学生から社会人まで受け入れました。事前の日本とケニアでの研修から入り、ナイロビ事務所での作業、スタッフが同行する現場活動を経て、各人に現場を任せられることを目指して、育成しました。

ケニアで修了したインターンは、105名になります。そのうち3分の1以上の38人が、経験を活用して、自分でNGOを設立したり、NGO(当会を含めます)、JICAや大使館、国際機関等に勤務したり、アフリカの住民への協力に取り組んできています。

同様に2019年にインターン育成を開始したマラウイでは、派遣後に準スタッフとしての契約を結ぶことにしました。もともと、当会のインターンは、派遣期間が長く、活動や責任の量が多いことから、実務との乖離が

少ない名称になりました。

2020年初めに発生した新型コロナウイルス感染症(Covid-19)への対応で、3月、インターンが予定を早めて帰国しました。4月に日本人スタッフ全員が緊急退避し、その後、1年以上にわたって、マラウイでの活動はマラウイ人スタッフ・専門家が担いました。日本人スタッフは日本からインターネットを活用した遠隔での事業運営で乗り切りました。2021年9月から、日本人スタッフがマラウイ滞在する体制に復帰できましたが、2022年は準スタッフの派遣は見合わせていました。

現在、教室建設事業がほぼ終了し、次のライフスキル教育を基盤とした学校保健活動の形成に取り組んでいます。並行して、2023年2月に公募して採用となった準スタッフ2名の派遣準備をすすめています。

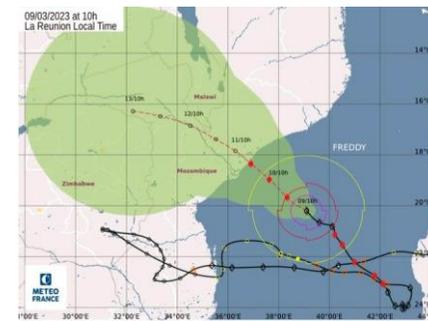
これまでの事業を通して、当会のパロンベ県の地域住民への理解が深まり、インターネットを用いて現場と日本とで毎日活動の進捗を確認・協議できる環境もできました。このような状況を活用して、新たな育成研修に取り組みたいと考えています。準スタッフが地域の住民や行政官との対面での活動に取り組んで、関係者から多くのことを学び、地域の社会開発に貢献し、自身の経験の蓄積につなげられることを目指しています。

## ボランティア便り

## サイクロン・フレディの被害

永岡 宏昌

当会が活動しているマラウイ共和国パロンベ県は、南部アフリカで最も高いムランジェ山塊とその北のミチェン山の麓に広がる地域です。山塊の地形に関連するの、雨期には大量の降雨がある場所です。活動を始めた2018年以降、毎年のようにサイクロンの大雨による畑や建物への浸水被害などがみられました。今回のサイクロン・フレディは、最大のエネルギー量(ACE)を記録したサイクロンで、2023年2月3日にオーストラリア北西海上で発生し、インド洋を横切って、マラウイ南部あたりで3月14日に消滅しました。マラウイ南部では、洪水や土砂災害が発生し、1000名以上の住民が亡くなりました。



出典：世界気象機関

パロンベ県も深刻な災害に見舞われました。ムランジェ山塊の東側では、いくつもの土石流災害が発生しました。当会が教室建設で関わってきた学校の中で、被害が大き

かったのも、この地域のA校です。3月14日に学校近くで発生した土石流で家も畑も埋まってしまい、多くの住民が亡くなり、10人以上は同校の生徒でした。この学校地域では、災害発生の前日に、行政から避難を促すスピーカーでのアナウンスがありましたが、学校に避難した住民は少数で、集団での避難行動にはつながりませんでした。チーフ(村長)によると、1991年3月の大災害の際には被害がなかったため、このような状況になるとは予測しなかった、とのこと。被災後は3,743人以上がA校の教室を避難所として滞りました。A校での悲劇のほかにも、川で母子が濁流にのまれて亡くなった例も聞きました。一方で、村の多くの家屋が水没したけれども、チーフの決断で村人全員が学校に避難できた例などを聞きました。

当会事業の7校9教室の建設が全て完了した直後に、このサイクロン被害に見舞われ、その教室の多くが避難所や物資倉庫として活用されました。多くの地域で、初等学校の教室が災害から避難できる唯一の安全な場所となっていることを実感しました。

また、今後の被害を予防するために、当会が準備しているライフスキル教育を基盤とした学校保健活動の形成には、防災の視点も取り入れたいと考えています。

## 報告

### ケニアでインターン、マラウイで調整員—2か国での計6年の活動を振り返る 宇野由紀信 元調整員の内部報告会

2022年8月の第3回理事会で、9月に一時帰国する予定の宇野由起信調整員に関して、「仕事の内容や考えを他人に伝えて議論する場数を踏んでおくことは無駄ではないので、本人の希望によるが、理事会等の内部向けの報告会を設けては」という提案がありました。時期は退任後になり、2023年4月29日にオンラインで開催。役員7人のほか、ケニアとマラウイでの活動時期が重なる、元インターンと短期調整員、スタッフ13人が参加して、6年にわたる経験のまとめを聞きました。

2016年1月～8月：ケニア・インターン  
2016年12月～2017年4月：短期調整員  
2018年3月：短期調整員  
同年4月～2023年3月(うち2020年4月～2021年11月は国内で在宅勤務)：マラウイ調整員

#### ■Topic1 僕がCanDoでやってきたこと

ケニアとマラウイのパワーポイントのシート2枚で紹介しました。

#### ■Topic2 社会開発の理解と魅力

「国際協力」を「開発援助」と「緊急援助」の2つの円で描き、前者に「社会開発」と「経済開発」の2つの小さな円を入れて説明。どちらの2つの円も重なる部分があります。

次のシートは、「中国のこたわざから考える『社会開発』の仕事」。「魚を与えるのでは

なく、釣り方を教えよ」の「釣り方を考える」を細かく考えてやる仕事→「社会開発」。

そして、『『援助慣れ』から『自律的な発展』へつなげる仕事。「援助慣れは誰のせい? →『慣れ』より『漬け』?」という問いかけに続いて、「When: いつからいつまで」から「What: どこまで供与する」など、5W1Hで社会開発について考えたことを発表。

#### ■Topic3 考察：なぜCanDoは長く活動できているか

◇考察①有名起業家の名言から考えてみる  
眼鏡製造販売チェーンの再建に成功した田中修治さんの言葉「成功はアート、失敗はサイエンス」から、「どうしたらうまくいくかではなく、どうしたら失敗しないか→常にリスクを考えているところ」だと言いました。

◇考察②マーケティングの4PならぬCanDoの4Pから考えてみる

レイ・ヴァイトンを例に考えてみる、というところで次のシートでは2つを比較。

○レイ・ヴァイトンの4P

・Product: 商品

大量生産しない(職人育成+クオリティを保つため)

- ・Price: 価格  
セールしない、アウトレット出さない
- ・Promotion: 宣伝  
商品ではなくイメージのCMをする
- ・Place: 流通  
ライセンス契約しない

○CanDoの4P

- ・Primary Value: 中心的価値  
副次的利益を最小限に
- ・Policy: プレない方針  
そこにロジックはあるか
- ・No Promotion: 宣伝×  
現場にメディアを入れない
- ・Place: 支配領域  
代表変わらず+手の届く範囲での活動

#### ■Topic4 ベスト3で振り返る僕の 아프리카 ワーク

◇身につけた能力ベスト3

柔軟性/現場適応力+好奇心のバランス  
/協調性・人巻き込み力

◇頑張ろっと思えた瞬間ベスト3

1. 約束の時間前に学校に来て待ってる保護者をみたとき  
少数だけけどやっぱりこの学校にもいる。
2. ジェスチャーでお腹へったよと、冗談で言ってくる保護者をみたとき  
CanDoは何もくれないのわかってるという状態になっていることがすごい。

3. マラウイ人スタッフ専門家が何か自発的にやってくれたとき  
+α 報告や準備や保護者との雑談共有だったり、専門家が写真をとってくれてたりだったり。

◇やってよかったな、と思えた当事者のコメントベスト3

1. (女性保護者が)村の橋建設でレンガ積んだよ! 家のトイレ建てたよ! サイクロンで傷んだ壁これから直すよ!
2. 建設活動を見て、生徒が戻ってきたよ!
3. (保護者が学校で活動→保護者の意識向上→子どもへのEncourage→)退学者減ったよ! 8年生の修了テスト合格者増えたよ!

続いて、「ストレスフルだった仕事ベスト3」、「日本から持ち込んだアイテムベストバイ3選」を報告しました。

「写真で振り返る僕のアフリカンライフ\*」、「そしてこれから」が続いて、最後は質疑応答の時間。司会者の求めで、残っていた参加者全員が自己紹介をして、感想を述べました。はからずも、インターンの同窓会兼役員との交流会となりました。

\*参加者に写真をファイルでプレゼント。表紙の写真の上2段はケニアのファイルから。2段目右から2枚目は、陸ガメ。右から1枚目は会計士直伝のカレー(会報76号「インターンを終えて」の編集部注で記載)。下2段はマラウイ。

## 報告 マラウイでの活動—2023年1月～5月

### ■パロンベ県

#### 保護者参加による教室建設

##### □1月

・ゼンジェ校で1教室、ナゾンベ校で小規模教室の建設が完了しました。

##### □2月

・クランベ校で教室棟、バーニ校で小規模教室の建設が完了しました。

##### □3月

・外務省日本 NGO 連携無償資金協力事業 (N連) の外部調査のうち現場監査を実施。

・リングニ校で教室棟の建設が完了。

・ミンガンボ校で1教室の建設が完了。地盤が脆弱なので土留め壁の建設を追加。開始後にサイクロン・フレディの洪水被害。復旧作業を優先するため、N連の事業期間を3月末までから6月末まで延長しました。

・7校を訪問し、完了の状況を確認しました。

##### □4月

・会計事務所 Chaula & Associates によるブランタイヤ事務所の2022年度会計監査およびN連の外部調査の会計監査を実施。

在マラウイ日本大使館による草の根・人間の安全保障無償資金協力(GGP)調査に協力して、チトコロ校、クランベ校を訪問。

### ■パロンベ県ムロンバ教育区

#### 学校保健

##### □1月

・2022年2月と12月の研修の修了証を発行する参加者について各校と合意。

##### □2月

・12月に実施した研修の手順書のチェワ語訳について教育局長から添削を受けました。

・教育局長に事業完了報告書(2019年4月1日～2022年12月31日)を提出しました。

## 報告 2023年度年次総会を対面とオンラインで開催しました

3月25日(土)、不忍通りふれあい館およびZoomを使用しオンラインで2023年度年次総会を開催しました。一般会員41人のうち22人が出席—対面6、オンライン8、書面および電磁的方法による表決3、表決委任5—、定款の定足数「3分の1以上」を満たし

て成立。事務局長の佐久間がオンラインを併用するので議長を務めることを諮り、全員異議なく選任されました。

審議の結果、第1号議案 2022年度活動報告・会計報告、第2号議案 2023年度活動計画・予算案が承認されました。

## フォト・レポート

### パロンベ県の初等学校7校で保護者参加による教室建設が完了

—2校で教室棟(2教室と2小部屋)、3校で1教室、2校で小規模教室—



#### ■1教室

◇ゼンジェ校



◇ミンガンボ校



◇チトコロ校



2019年に開始した、教育施設改善に関する初等学校保護者の参加意識を強化する事業で、2020年に倉庫を建設した13校のうち、9校を対象。7校で教室が完成しました。

#### ■教室棟(2教室と2小部屋)

◇クランベ校



◇リングニ校



#### ■小規模の教室

◇ナゾンベ校



◇バーニ校



## 事務局から

### 報告

#### ◇組織

○3月25日、不忍通りふれあい館における対面とZoomを利用したオンラインで、2023年度年次総会を開催しました(詳細は p.6 参照)。

○4月29日、宇野由起信 元調整員の内部報告会を開催しました(詳細は pp.4~5 参照)。

#### ◇支援

○3月22日、独立行政法人 国際協力機構 東京センターから、2022年度 草の根技術協力事業(草の根協力パートナー型)事業提案書にかかる最終審査の結果、「ライフスキル教育を基盤とした子どもの教育と健康・安全を保障する活動形成事業」(事業期間は 2023年11月1日~2026年10月31日)が採択案件として決定、との通知が届きました。実施に向けた準備を開始しました。

○3月31日、外務省日本 NGO 連携無償資金協力「パロンベ県初等学校保護者参加に

よる教室建設事業」第2年次の事業実施期間を3月31日までから6月30日に再度延長しました(契約は 2022年2月10日~2023年2月9日)。サイクロン・フレディの被害により、残余の活動の完了が難しいため、再延長にかかる追加経費は自己資金とします。

### 人の動き ~2023年6月9日

○4月1日、調整員 宇野由起信が5年の任期を終了してマラウイから帰国。

○5月14日、調整員 浅利有紀がマラウイから一時帰国。

### お知らせ

#### ■ 『CanDo25年の歩み』を発行

6月20日、設立した1998年1月から2022年12月まで25年の活動をまとめた小冊子を発行(A5判20ページ)。

■ 次号は2023年9月に発行の予定です。

#### CanDo アフリカ [第102号]

2023年6月20日発行

発行人:

永岡宏昌

編集人:

佐久間典子

発行:

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)

〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室

電話:

03-3822-1041

電子メール:

tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト:

<http://www.cando.or.jp/>

facebook page:

<http://www.facebook.com/candoafrica>

郵便振替:

口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会